

下田総合病院（地域連携病院）とトリアージ合同研修を行いました。

6月19日世田谷下田総合病院の皆様とトリアージの研修会を行いました。

トリアージとは災害時に多数の傷病者が発生した場合に、より多くの方がより幸せになれるように、治療の優先順を決めるために行なわれます。トリアージ (Triage) は災害時の医療のなかで最初に行なわれ、その後、治療 (Treatment)、搬送 (Transport) と引き継がれます。

下田総合病院は地域に密着した救急病院であり、東京都の新しい災害医療体制のなかで、災害拠点連携病院に指定されています。災害時に近隣の方々が医療を求めて殺到することも考えられます。そのような場合にスムーズに適切な医療を提供するためにトリアージは不可欠で、そのために普段からの訓練は必要です。

実際は、東京都地域災害医療コーディネーターでもある太田院長の座学ののち、患者役、医療者役のグループに分かれて、患者役は迫真の演技でリアリティーが高まり、医療者はチームで作戦会議を行い、その打ち合わせに沿ってトリアージ（下記に図を示します）をしていき、リーダーが本部長である下田院長に報告、というところまで、まさに実践さながらの訓練を行いました。

私は患者役のお手伝いをさせていただきましたが、参加した皆さんは、回を重ねるごとに様々な工夫を凝らし、すばらしい研修ができたと思います。実際に経験してみて、知識はもちろん、場所や道具など、平時から整理しておかなければいけないことがたくさんあることがわかりました。

このような訓練は定期的に何度も繰り返しておきたいことです。これからは医療機関同士だけでなく、地域の多くの皆さんとも協力しながら準備をしていきたいなあ、と改めて考えさせられた有意義な研修会でした。

世田谷下田総合病院には東京 DMAT 隊員の吉留さんが連携室にいらっしゃいます。彼が中心となって今日の訓練に備えて院内の勉強会等準備を繰り返してこられたそうです。なるほど、皆さんよくできていらっしゃったわけです。

訓練後の懇親会でも多職種の皆さんといろいろなお話ができました。こういう連携は平時もちろん、災害時にも役に立つと実感しました。また、よろしく願います。

START (simple triage and rapid treatment) plus方式

Triage Sieve (ふるいわけ)

